

《履修上の留意事項》開講前に必ず指定教科書を購入し、講義の際には持参すること。

レポート等の提出物の締切を厳守すること。

講義内容資料は適宜配付するので、授業中の録音、録画、写真撮影等は厳禁とする。

《担当者名》教授 / 三浦 宏子 hmiura@ 講師 / 水谷 博幸 mizugai@

予防医療科学センター / 岡村敏弘 非常勤講師 / 丹下 貴司 非常勤講師 / 井田 有亮

【概要】

歯科医師としての社会的行為である歯科医療・保健活動を実践するために、歯科医療・保健に関する法律、制度、倫理、需給関係、医療経済等に関する知識を修得するとともに、歯科口腔保健サービスの供給体制の概要を複合的に理解する。

【学修目標】

超高齢社会における保健医療福祉の理念とシステムについて説明できる。

歯科医師としての社会的役割と責任について説明できる。

住民・患者を生活者として見る視点を拡大し、歯科医療の専門家としてニーズに応える方略について説明できる。

住民・患者を中核とする歯科保健医療システムについて説明できる。

我が国の歯科保健医療の現状と課題について説明できる。

保健医療専門職のプロフェッショナルリズムについて説明できる。

予防の概念に基づき、健康増進へ貢献するための方略について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 } 6	健康と疾病の概念および保健・医療・福祉・介護の法規	口腔疾患と社会のつながりを学ぶ。 歯科医師法、歯科衛生士法、歯科技工士法、医療法、歯科口腔保健法、介護保険法等の関連する諸法規の内容を理解する。 B-2-1)-	三浦宏子 水谷博幸
7	地域医療連携とチーム医療	医療連携の枠組みを理解するとともに、地域での実践事例を学ぶ。 医療機関での連携体制を知る。 B-2-2)-	三浦宏子
8	衛生行政と地域歯科保健活動	衛生行政の枠組みを知る。 保健所の役割と活動を知る。 行政歯科専門職の役割を知る。	丹下貴司
9	保健医療分野の情報管理	診療情報・診療記録等（電子カルテを含む）の情報管理について理解する。 レセプト情報の利活用について学ぶ。 B-2-2)-	井田有亮
10 } 11	歯科医療の質と安全	院内感染対策の重要性を理解する。 医療過誤・医療紛争を防止するための知識を得る。 A-6-3)- 、B-3-1-	三浦宏子
12 } 14	社会保障と医療経済	医療保険の概要を理解する。 介護保険、年金保険および生活保護の概要を理解する。 医療経済と国民医療費の現状を理解する。 B-2-2)-	岡村敏弘 三浦宏子
15	歯科医療提供体制	歯科医療提供体制の現状を統計資料に基づき理解する。 今後の歯科医療提供体制の課題について考察し、レポートにまとめる。 A-7-1)-	三浦宏子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

定期試験（90％）、レポート（10％）

**【教科書】**

「公衆衛生がみえる」メディックメディア

**【備考】**

**【学修の準備】**

指定教科書を必ず事前に準備し、講義当日に持参すること。

法律関係の語句が多く出ていることから、授業の復習は講義受講日のうちにまとめる。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（専門的实践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を社会歯科医学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を社会歯科医学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を社会歯科医学の観点から修得する（社会的貢献）。

**【実務経験】**

三浦 宏子（歯科医師）、水谷 博幸（歯科医師）、岡村 敏弘（歯科医師）、丹下 貴司（歯科医師）、井田 有亮（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

社会歯科学は、個人の健康のみならず、地域社会全体に寄与する科目であり、学理に則った教育内容と実務経験の両者をバランスよく学ぶことで教育成果が期待できる内容となっている。